

英語学習者の言語習得に関するデータと その言語理論的位置付け*

大門正幸**・柳 朋宏***

1. 普遍文法と学習者理論

チョムスキーに始まる生成文法的接近法では、人間は生まれながらに言語能力、すなわち「文法」を持つと仮定されており、この、日本語や英語といった個別言語を超えた生得的な文法は普遍文法と呼ばれている。適切な言語刺激が与えられることによって普遍文法は活性化され、実際の言語習得が行われることになる。この理論的仮定は第1言語の習得に関しては広く受け入れられており、様々な先行研究がなされているが、第2言語と普遍文法との関係はあまり明らかではない。この点に関して、理論的には、(1)と(2)に示す二つの立場を取ることが可能である。但し(2)はさらに大きく二つに分けることができる。

- (1) 第2言語習得の場合には、第1言語習得の場合とは違って、生得的な言語習得メカニズムを利用することができない。(cf. Bley-Vroman (1989) ; Meisel (1997))
- (2) 第2言語習得においても第1言語習得同様、生得的な言語習得メカニ

* 本論文は、2003年2月8日に行われた、愛知・岐阜・三重英語学談話会（於名古屋大学）ミニシンポジウム「理論とL2獲得」における発表に加筆・修正を加えたものです。発表の機会を与えて下さった丹羽義信先生をはじめ、会に参加し貴重な助言を下された方々に感謝申し上げます。

** 人文学部助教授－英語学

*** 外国語教室講師

ズムを利用することが可能である。

a. 完全に利用可能 (cf. Flynn (1996) ; Thomas (1993))

b. 部分的に利用可能 (cf. Schachter (1989, 1996))

第2言語習得に関して上記のような立場の相違が生じるのは、第1言語習得の場合とは違って第2言語習得が第1言語習得のように「完全に」行われることはまだからである。この点に関して、第2言語習得においても第1言語習得の場合と同じメカニズムが働いているとする主張は、当該の研究者が対象とした言語現象に基づいたものに過ぎず (Flynn (1996) の研究は語順・コントロール・機能範疇を対象としたものであり、Thomas (1993) の研究は再帰表現を対象としたものである)、それ以外の現象についても検証していく必要があることに注意すべきである。本論文では、Flynn (1996) が自説を支持する根拠として用いている語順に関する現象と一致 (agreement) 現象に焦点を当て、第2言語において普遍文法の言語習得メカニズムが働いているかどうかを検証することにする。

2. 媒介変数

原理と媒介変数による接近法では、個別言語ごとの相違を説明するために、普遍文法は(i)あらゆる言語に普遍的に見られる原理と、(ii)言語ごとに値が異なる可能性のある媒介変数とに分けられる。そして言語間の相違は、少なくとも中心的な部分においては、媒介変数の値の相違によるものであると分析される。

2.1 語順に関する媒介変数

本節では語順に関する媒介変数を取り上げる。言語の普遍的な構造は、Chomsky (1986) における式形を用いれば、(3)のように表されるが、実際の語順は主要部の位置に関わる媒介変数によって決定される。

- (3) a. $X' = XX''$
 b. $X'' = X''X'$ (cf. Chomsky (1986 : 3))

別の言い方をすれば、言語の句構造は主要部 (X)、補部 ((3 a) の X'')、指定部 ((3 b) 右辺の X'')、と言った階層構造を持つという点では普遍的であるが、主要部との関係において補部や指定部がどの位置を占めるかは媒介変数によって決定されるため、言語ごとに異なりうるのである。例えば英語においては主要部は、(4)に示すように、通常、補部に先行するが、日本語では主要部は、(5)に示すように、通常、補部に後続する。

- (4) a. NP: destruction [of the city]
 b. AP: afraid [of John]
 c. VP: eat [a sweet]
 d. PP: in [the park]
 (5) a. NP: [mati (no)] hakai
 b. AP: [John (ga)] kowai
 c. VP: [okasi (o)] taberu
 d. PP: [kooen] de

両言語のこうした相違は、主要部と補部の位置を決定する媒介変数である、主要部・補部媒介変数 (head parameter) の値の相違であり、英語は「主要部先行」 (head first)、日本語は「主要部後続」 (head last) という値を持つ、と仮定することで説明できる。

Flynn (1996) は、英語を学ぶ日本人学習者が(6)のような文をどれくらい理解しているか、またそれぞれの文がどの程度の割合で発せられるかについて調査を行っている。

- (6) Pre- and postposed subordinate adverbial clauses
 a. Preposed:

When the actor finished the book, the woman called the professor.

b. Postposed:

The worker called the owner when the engineer finished the plans.

主要部 (この場合は主節) の位置に関して言えば、(6 a) は日本語に特徴的な主要部後続型の語順であり、(6 b) は英語に特徴的な主要部先行型の語順である。Flynn (1996) の調査の結果、(6 a)、(6 b) いずれの文も英語を学ぶ日本人学習者にとって理解が困難ではないこと、また (6 b) の型の文が (6 a) の型の文よりも多く発せられることが明らかになった。このことから、Flynn (1996) は第 2 言語学習者も普遍文法にアクセスすることが可能である、と結論づけている。但し、Flynn (1996) が調査対象とした語順は主節と従属節の位置に関するものであり、従属節は補部ではなく付加詞であると考えられるので、主要部・補部媒介変数に関して調査がなされたとは言い難い。

本論文では学習者コーパスを資料とし、動詞句における主要部 (動詞) と補部 (目的語) の位置を分析することで、主要部・補部媒介変数に関して Flynn (1996) が主要部 (主節) と付加詞 (従属節) の位置に関して明らかにしたような事実が観察されるかをみる。

2.2 機能範疇に関する媒介変数

Fukui (1988, 1995) は、言語間の相違は本質的には機能範疇の有無、あるいは機能範疇の性質の相違によるものであるとする、Functional Parametrization Hypothesis を仮定している (Fukui (1988) では、機能範疇の有無と同時に、語順が媒介変数の値によって言語ごとに異なるものの可能性としてあげられている)。Fukui の仮定によれば、日本語は D (Determiner) や I (Infl)、C (Complementizer) といった機能範疇がない。従って、英語とは異なり、日本語は(7)のような特徴を持つとされる (具体的な現象の詳細については、Fukui (1986) を参照)。

- (7) a. Japanese lacks the agreement phenomena.
 b. Japanese lacks SPECs (as a possible landing site for $X^{\max}$ movement). (Fukui (1988: 260))

もし機能範疇の有無が媒介変数の値の相違によるものであり、日本語は英語と違って機能範疇がない言語であるとする、英語を学習中の日本語話者の発話を分析することで、第2言語学習者が普遍文法にアクセスできるかどうかという問題に対して手がかりを得ることが可能となるはずである。本論文では、この点についても分析を行う。

3. 資料と分析の提示

3.1 資料

本論文の分析は、広島大学教育学部の三浦省吾先生が、インターネット上で公開されている資料「英語学習者コーパス No. 1 (中学校英語)」に基づくものである。コーパス作成のための調査は、*New Horizon English Course* (東京書籍) と *Sunshine English Course* (開隆堂出版) の各学年用教科書に示されている文法事項と文型を参考にして行われた。具体的には、各学年で習う文法事項などを含む日本語を与え、それを英語に直させたものである。例えば、(8)のように日本語が与えられており、カッコ内の英文を答えさせるものである¹。

- (8) a. 彼の妹は日本語を話します。(His sister speaks Japanese.)
 (NH1_# 30)
 b. 毎日、英語を勉強しなさい。(Study English every day.)
 (SE1_# 40)

¹ 以下、「英語学習者コーパス No. 1 (中学校英語)」から引用する際は、解答の右側に、教科書名、学年、設問番号を加える。NH=*New Horizon English Course*; SE=*Sunshine English Course*.

- c. ナンシーはテニスが一番好きだ。(Nancy likes tennis the best.)
(SE2_# 36)

次に、調査時期については、中学 1 年生で学習した事項は中学 2 年生で、2 年生のものは 3 年生で、3 年生のものは高校 1 年生というように 1 学年遅れとなっている。これは学習した文法知識がやや固定化した段階で、その文法知識を抽出したいという意図によるものである。但し、導入後どのくらい時間が経過しているかについては不明である。より詳しいデータ収集に関する情報は、(9)の web ページを参照。

- (9) 「英語学習者コーパス No. 1 (中学校英語)」(Hiroshima English Learners' Corpus)
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/d052121/eigo1.html>

このコーパスは生徒の解答通りに、スペリングや句読点の誤りもそのまま入力し、作成されている。よって、スペリングの誤りや句読点の付け忘れなどが散在しているが、今回の調査では、よほどの外れな場合を除き、スペリングの誤りや句読点の付け忘れは無視している。例えば、(10)のような解答も有効な解答として扱っている。

- (10) a. I am whashcnig TV now (SE1_# 66)
b. May I use your bayschool. (SE2_# 24)

また、今回の調査は、「動詞と目的語の語順」と「主語と動詞の一致」に焦点を当てているため、「語順」の調査においては(11)のように *be* 動詞が含まれている例文も有効な解答とみなし、これらは「動詞? 目的語」語順として集計している。

- (11) a. Fred like *isn't* tempura. (NH1_# 35)

- b. I *was* studied English yesterday last night. (NH2_# 07)

但し、*be* 動詞のみがあり、日本語に対応する一般動詞が全く含まれていない、(12)のような解答は集計から除外している。

- (12) a. Did you *are* homework yesterday? (NH2_# 08)

- b. I *am* beasball afternoon. (SE1_# 65)

3.2 結果

3.2 節では、3.1 節で示した方針に従い集計した結果を提示し、3.3 節でそれに対する分析を行う。3.2.1 節では、「動詞と目的語の語順」に関するデータを取り上げ、3.2.2 節では「主語と動詞の一致」に関するデータを取り上げる。

3.2.1 動詞と目的語の語順

表 1 は、「動詞と目的語の語順」に関するデータを調査した結果である（具体的な問題文と模範解答については付録 1 を参照）。表中、「VO」「OV」の列はそれぞれ、「動詞—目的語」語順、「目的語—動詞」語順の回答数を表しており、「無効」の列は有効解答とは認められなかった解答数を表している。「無効」の内訳は、一般動詞の代わりに *be* 動詞が用いられていたもの（「*be* 動詞」）、文が不完全であったもの（「未完成」）、解答が書かれていなかったもの（「無解答」）の三つである。

この表から分かるように、全解答数のうち、約 4 分の 1 は無効なものであり、残り 4 分の 3 が語順に関する分析に必要なデータである。その部分のみを取り出し、まとめたものが表 2 である。

表 2 から分かるように、語順に関しては、主要部と補部の位置を日本語のような主要部後続型にしてしまう誤りは非常にまれである。学年によりその割合は異なるものの、VO 語順の 97.6%～99.0% に対し、OV 語順はわずか 0.9%～2.3% である。実際の誤りの例を、学年別に(13)–(15)にあげる。

表1. 語順に関するデータ（全解答）

	VO	OV	無効	無効解答の内訳			合計
				be動詞	未完成	無解答	
NH 1	671	16	211	16	32	163	898
	74.7%	1.8%	23.5%	1.8%	3.7%	18.2%	
SE 1	1694	24	522	54	201	267	2240
	75.6%	1.1%	23.3%	2.4%	9.0%	11.9%	
NH 2	746	7	278	1	105	172	1031
	72.4%	0.7%	27.0%	0.1%	10.2%	16.7%	
SE 2	621	13	236	2	127	107	870
	71.4%	1.5%	27.1%	0.2%	14.6%	12.3%	
NH 3 & SE 3	1404	25	543	12	285	246	1972
	71.2%	1.3%	27.5%	0.6%	14.5%	12.5%	
合計	5136	85	1790	85	750	955	7011
	73.3%	1.2%	25.5%	1.2%	10.7%	13.6%	

表2. 語順に関するデータ（有効解答）

	VO	OV	合計
NH 1	671	16	687
	97.7%	2.3%	
SE 1	1694	24	1718
	98.6%	1.4%	
NH 2	746	7	753
	99.1%	0.9%	
SE 2	621	13	634
	98.0%	2.1%	
NH 3 & SE 3	1404	25	1429
	98.3%	1.8%	
合計	5136	85	5221
	98.4%	1.6%	

・OV 型の誤答例

- (13) a. Can Mike *Japanese speak*? (NH1_# 32)
 b. Are you are *English studying* now? (NH1_# 55)
 c. can you *English book raed*. (SE1_# 59)
 d. Who is *that car like*? (SE1_# 71)
- (14) a. I was go to tlibraly *history study*. (NH2_# 19)
 b. Did you *English study* yesterday? (SE2_# 09)
 c. Shall I *windrw open*? (SE2_# 22)
 d. I going to *some oreng buy shop*. (SE2_# 42)
- (15) a. I know *swim like* you (NH3&SE3_# 01)
 b. library *book reading* student my friend (NH3&SE3_# 16)
 c. *English speak* is no easy me. (NH3&SE3_# 35)

しかし、実は、主要部後続型と分類した解答の中には、(16)に示すように、純粋に OV 型であるとしてしまってよいか判断に迷うものも含まれる。

・OV 型の誤答例で判断に迷うもの

- (16) a. My dog is *I like*. (NH1_# 47)
 b. I am *he know*. (SE1_# 54)
 c. Keiko is *she know* [*knows*]. (SE1_# 55)
 d. Shall I *you help*? (NH2_# 42)
 e. You should *he vist*. (NH3&SE3_# 06)

これらの例では、目的語に相当する要素が、目的格代名詞ではなく主格代名詞で表されている。(16 a)は、「私の犬は私が好きです」に対する解答であるが、「私が好きです」の部分にのみ着目すれば、必ずしも OV 型の誤答であるとは判断し難い。このことを考慮し、(16)のような解答を集計から除けば、日本語語順の影響を受けたと考えられる誤りの割合はさらに低くなる。

3.2.2 主語と動詞の一致

次に「主語と動詞の一致」に関するデータを示す。具体的な問題文と模範解答については付録2を参照のこと。動詞にはっきりと一致語尾が現れる3人称単数現在形のみを調査対象とした。「語順」に関する調査とは異なり、*be*動詞の有無で大きく二つに分け、さらにいくつかの下位区分を設けた。両区分のうち、「一致有」の列は一般動詞と主語が一致している解答数、「一致無」の列は一致がない解答数をそれぞれ示してある。「二重」の列は、助動詞と本動詞の両方に一致語尾が使われている解答数、「誤一致」の列は、疑問文・否定文で、助動詞ではなく本動詞に一致語尾が現れている解答数をそれぞれ示してある。「欠如」の列は本動詞が書かれていなかった解答数であり、「無効」の列は無解答のものと、文が不完全なものをあわせた数である。

表3. 一致に関するデータ（全解答）

	<i>be</i> 動詞無				<i>be</i> 動詞有			無効	合計
	一致有	二重	誤一致	一致無	一致有	欠如	一致無		
NH 1	108	2	2	44	18	13	28	62	277
	39.0%	0.7%	0.7%	15.9%	6.5%	4.7%	10.1%	22.4%	
SE 1	176	4	0	136	9	11	39	101	476
	37.0%	0.84%	0.0%	28.6%	1.9%	2.3%	8.2%	21.2%	
SE 2	29	0	0	11	2	6	7	28	83
	34.9%	0.0%	0.0%	13.3%	2.4%	7.2%	8.4%	33.7%	
NH 3 & SE 3	87	1	4	46	3	3	10	106	260
	33.5%	0.9%	1.5%	17.7%	1.2%	1.2%	3.9%	40.8%	
合 計	400	7	6	237	32	33	84	297	1096
	36.5%	0.6%	0.6%	21.6%	2.9%	3.0%	7.7%	27.1%	

表3から*be*動詞を含まず、一致があるものとなないものを取り出し、まとめたものが表4である。同様に、*be*動詞が使われており、一致があるものとなないものを取り出し、まとめたものが表5である。また、*be*動詞の有無に関わらず、一致があるものとなないものとで分けた場合の結果は表6である。

表 4. 一致のデータ (*be* 動詞含まない)

	一 致	一致無	合 計
NH 1	108	48	156
	69.2%	30.8%	
SE 1	176	140	316
	55.7%	44.3%	
SE 2	29	11	40
	72.5%	27.5%	
NH 3 & SE 3	87	51	138
	63.0%	37.0%	
合 計	400	250	650
	61.5%	38.5%	

表 5. 一致のデータ (*be* 動詞含む)

	一 致	一致無	合 計
NH 1	18	41	59
	30.5%	69.5%	
SE 1	9	50	59
	15.3%	84.8%	
SE 2	2	13	15
	13.3%	86.7%	
NH 3 & SE 3	3	13	16
	18.8%	81.3%	
合 計	32	117	149
	21.5%	78.5%	

表 6. 一致のデータ (合計)

	一 致	一致無	合 計
NH 1	126	89	215
	58.6%	41.4%	
SE 1	185	190	375
	49.3%	50.7%	
SE 2	31	24	55
	56.4%	43.6%	
NH 3 & SE 3	90	64	154
	58.4%	41.6%	
合 計	432	367	799
	54.1%	45.9%	

「語順」に関する誤りが全体の 1.6%であるのに対して、「一致」に関しては (*be* 動詞の有無により異なるが) 38.4%~78.5%と、かなり高い頻度で誤りが生じている。一致に関する誤りの例を(17)-(18)に挙げる。(17)は *be* 動詞を含まない例、(18)は *be* 動詞を含む例である。

・一致に関する誤りの例

- (17) a. His sister *speak* Japanese. (NH1_# 30)
 b. Mike *study* Japanese every day. (NH1_# 31)
 c. Fred *don't likes* tempura. (NH1_# 35)
 d. *Does* he *likes* basketball? (SE1_# 53)
 e. Nancy *liket* tennis. (SE2_# 36)
- (18) a. Mike *is study* Japanese every day. (NH1_# 31)
 b. Fred *is don't like* tempura. (NH1_# 35)
 c. He *like is* she. (NH1_# 49)
 d. Nancy *is liker* a tennis of all them. (SE1_# 36)
 e. She *is sing* the song every day. (SE1_# 68)

また、表 4 と表 5 を比べてみると、*be* 動詞の有無と一致の有無の間に興味深い関係があることが分かる。つまり、*be* 動詞を含まない場合は一致有りの解答数が多く、*be* 動詞を含む場合は一致無しの解答数が多くなっている。表 4・表 5 の合計の欄をまとめ、 χ^2 検定を行ったものが表 7 である²。

表 7. *be* 動詞の有無と一致の有無

	一致有	一致無
<i>be</i> 動詞無	400 ↑	250 ↓
<i>be</i> 動詞有	32 ↓	117 ↑

$$\chi^2(1) = 78.33, p < .01$$

表 7 から、*be* 動詞を含まず一致語尾がある解答数は有意に多く、同様に、*be* 動詞を含み一致語尾がない解答数も有意に多いことが分かる（それぞれ $p < .05$ ）。このことから、*be* 動詞を一致語尾の代用として用いている可能性がうかがわれる。

² χ^2 検定には、Java-Script STAR (<http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/>) を利用させていただいた。

3.3 分析

日英語の語順の相違と一致の有無のいずれもが媒介変数の値の相違から生じたものであると考えた場合、以上の資料から「第2言語習得においても第1言語習得同様、生得的な言語習得メカニズムを完全に利用することが可能である」(=(2a))という仮定は正しくないであろう。

一方、「第2言語習得においても部分的ではあるが、第1言語習得同様、生得的な言語習得メカニズムを利用することが可能である」(=(2b))とする部分利用仮説においては、次のように考えれば、当該の現象を適切に扱うことが可能となる。機能範疇に関する媒介変数の場合、値の固定化によって決定されるのは機能範疇の有無であり、ある言語におけるこの媒介変数の値が言語習得の過程で「無し」に固定化されてしまった場合、「有り」で固定化された場合に活性化されていたであろう全ての機能は働かなくなり、第2言語習得においても一度この媒介変数を活性化させ、「有り」の値を習得することは不可能に（あるいは不可能に近く）なる。

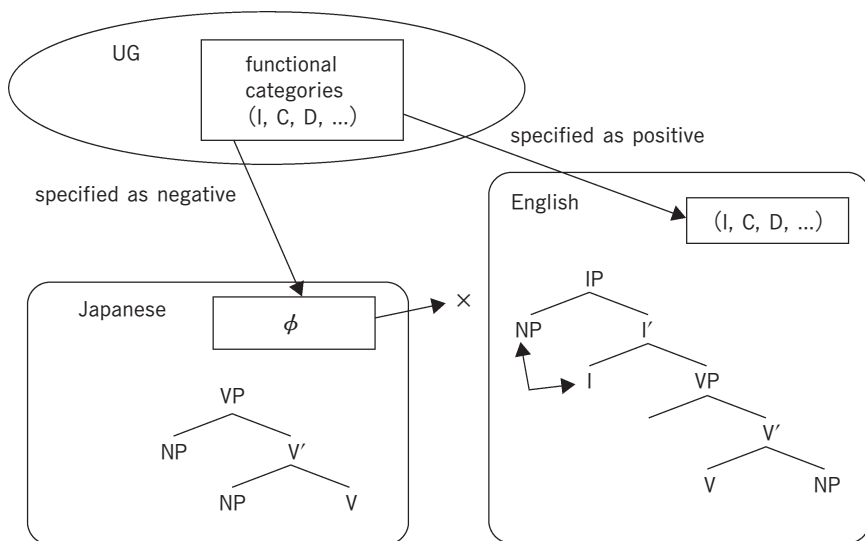


図1. 機能範疇に関する媒介変数

一方、語順に関する媒介変数の場合、語順を持たない言語は存在しないので、主要部が補部に先行する言語であれ、後続する言語であれ、この媒介変数に関する機能は常に働いており、従ってこの媒介変数に関しては第1言語と異なる値を取る言語の習得は容易である。この考え方は、束縛に関する現象をもとに、第1言語習得において活性化された媒介変数の値のみ第2言語習得においても利用可能になると主張する Schachter (1996) が提案する Window of Opportunity 仮説に通じるものである。

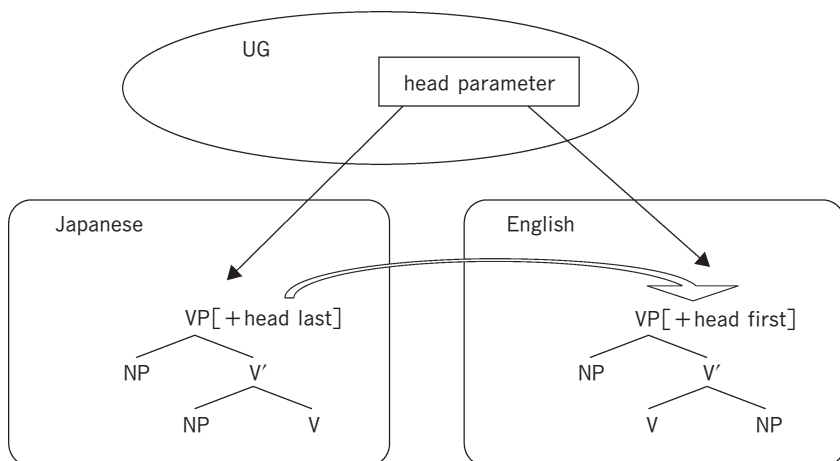


図2. 語順に関する媒介変数

普遍文法にはどのような媒介変数があるのかについてはまだまだ研究が十分進んでいると言える段階ではないが、今回の考察から、少なくとも媒介変数を大きく次の二つの型に分ける必要があるということは言えるであろう。

- (19) a. 恒常的被活性化媒介変数 (constantly activated parameter)
- b. 条件付き被活性化媒介変数 (conditionally activated parameter)

(19 a) の恒常的被活性化媒介変数は、主要部・補部媒介変数のように、第 1 言語習得においてどのような値に固定されようと常に活性化されていて第 2 言語習得において第 1 言語とは異なる値を容易に習得できる媒介変数である。一方 (19 b) の条件付き被活性化媒介変数は機能範疇の有無に関する媒介変数のように、第 1 言語の値によっては第 2 言語習得で第 1 言語習得とは異なる値を習得するのが困難になってしまうような媒介変数である。今回の資料は上述の Window of Opportunity 仮説が基本的に正しいことを示しているが、同時に、媒介変数そのものにも(19)にあげたような性質の異なるものがあることについても意識しておく必要がある。今後の媒介変数に関する研究、特に第 2 言語習得と媒介変数の関わりに関する研究においては、研究対象となる媒介変数が(19)にあげた二つのどちらに属しているのか常に意識して研究を進める必要があるであろう。

4. 対照分析再考

(20)の引用に代表される考えは学習者の母語と学習の対象となる言語を詳細に比較する対照分析 (contrastive analysis) という研究分野を生み出し、Stockwell et al. (1965) に代表される多くの対照言語学的研究がなされた。

- (20) We know from the observation of many cases that the grammatical structure of the native language tends to be transferred to the foreign language We have here the major source of difficulty or ease in learning the foreign language Those structures that are different will be difficult. (Lado 1957: 58-59)

しかしながら、生成文法をはじめとする、新しい言語観に基づく研究が盛んになったことや必ずしも学習者の誤りを正しく予測できないという事実が明らかになったことから、対照分析の求心力は失われ、現在ではほとんど顧み

られなくなっている。対照分析の予測力について、英語を学習している2,500人の日本語話者について対照分析が行う予測と実際の誤りを詳細に調査したWhitman and Jackson (1972) は“contrastive analysis, as represented by the four analyses tested in this project, is inadequate, theoretically and practically, to predict the interference problems of a language learner” (p. 40) と結論付けている。

しかし、本論文で提示した一致に関する資料に注目すれば、対照分析の基本的な考え方は必ずしも的外れではなかったことが明らかである。すなわち、多くの英語教員が経験上強く感じている通り、日本語にはない「一致」という現象の習得は日本語を母語とする学習者にとっては著しく困難であり、これはまさしく対照分析の予測するところである。対照分析の問題点は、むしろ、言語Aと言語Bにおける相違を一律に「学習困難」と予測したことにある。語順については英語と日本語は大きく異なるが、既に見たように、英語の語順の習得は日本語を母語とする学習者にとってそれほど困難なものではない。本論文では、この一致と語順に関する学習難易度の相違は媒介変数の型の相違に還元可能であることを示したが、このことは、適切な理論的枠組みがあれば対照分析的手法は十分有効であることを示している。今後は言語Aと言語Bの相違として一元的に扱われて来た「相違」は実は重層的であることを意識し、当該の「相違」が全体の中でどのような位置を占めるのかを意識しながら対照分析的研究を進めていく必要があるであろう。

5. 結論

本論文では、「英語学習者コーパス」から得られた「語順」と「一致」に関するデータに基づき、媒介変数には（少なくとも）二つの型があることを提案した。(1)第1言語習得において値が固定されても、常に活性化されているので、第2言語習得においても容易に利用可能であるもの（恒常的被活性化媒介変数）。「語順」に関する媒介変数はこのタイプに属する。(2)第1言語習

得において値が固定されてしまうと、その後不活性となるので、第2言語習得の際に、新たに「活性化」させるのが困難なもの（条件付き被活性化媒介変数）。機能範疇の有無がこのタイプに属する。「一致」現象はこの機能範疇の有無と大きく関わっており、日本語では機能範疇が「無し」と指定されているので、英語のように「有り」と指定されている言語の習得が困難となる。

また、学習者の母語と対象言語を詳細に比較する対照分析では、2言語間の相違を一律に「学習困難」だと予測したことが問題であったことを指摘した。母語と対象言語との間の「相違」が、3.3節で提案した2種類の媒介変数のどちらの型に属するのかを意識することで、対照分析的手法が十分有効なものであることを示唆した。

参考文献

- Bley-Vroman, Robert (1989) "What is the logical problem of foreign language learning?" in Gass, Susan, and Jacquelyn Schachter (eds.) *Linguistic perspectives on second language acquisition*. Cambridge: Cambridge University Press, 41-68.
- Chomsky, Noam (1986) *Barriers*. Cambridge, MA.: MIT Press.
- Flynn, Suzanne (1996) "A parameter-setting approach to second language acquisition," in Ritchie, William C. and Tej K. Bhatia (eds.) *Handbook of second language acquisition*. San Diego: Academic Press, 121-158.
- Fukui, Naoki (1986) *A theory of category projection and its application*. Doctoral dissertation, MIT.
- Fukui, Naoki (1988) "Deriving the differences between English and Japanese: A case study in parametric syntax," *English Linguistics* 5, 249-270.
- Fukui, Naoki (1995) "The principle-and-parameter approach: A comparative syntax of English and Japanese," in Shibatani, Masayoshi and Theodora. Bynon (eds.), *Approaches to language typology*. Oxford: Oxford University Press, 327-372.
- Lado, Robert (1957) *Linguistics across cultures*. Ann Arbor, MI: University of Michigan Press.

- Meisel, Jurgen (1997) "The acquisition of the syntax of negation in French and German: contrasting first and second language development," *Studies in Second Language Acquisition* 3, 109-135.
- Schachter, Jacquelyn (1989) "Testing a proposed universal," in in Gass, Susan, and Jacquelyn Schachter (eds.) *Linguistic perspectives on second language acquisition*. Cambridge: Cambridge University Press, 73-88.
- Stockwell, Robert, J. Donald Bowen, and John W. Martin (1965) *The grammatical structures of English and Spanish*. Chicago: University of Chicago Press.
- Thomas, Margaret (1993) *Knowledge of reflexives in a second language*. Amsterdam: John Benjamins.
- Whitman, Randal and Kenneth L. Jackson (1972) "The unpredictability of contrastive analysis," *Language Learning* 22, 29-41.

付録 1 : 「動詞と目的語の語順」に関する資料

New Horizon 1

- (1) NH1_# 16 私は、テニスが好きです。
I like tennis.
- (2) NH1_# 17 あなたはバスケットボールが好きです。
You like basketball.
- (3) NH1_# 18 あなたはテニスが好きですか。
Do you like tennis?
- (4) NH1_# 19 あなたは野球が好きですか。
Do you like baseball?
- (5) NH1_# 22 私には、アメリカ人のともだちがいます。
I have an American friend.
- (6) NH1_# 26 あなたは野球が好きですか、それともバスケットボールが好きですか。
Do you like baseball or basketball?
- (7) NH1_# 27 あなたはラケットを 2 本持っていますか。

Do you have two rackets?

- (8) NH1_# 29 私はペンを 5 本もっています。

I have five pens.

- (9) NH1_# 30 彼の妹は日本語を話します。

His sister speaks Japanese.

- (10) NH1_# 31 マイクは毎日日本語を勉強します。

Mike studies Japanese every day.

- (11) NH1_# 32 マイクは日本語を話しますか。

Does Mike speak Japanese?

- (12) NH1_# 33 あなたの妹は英語を話しますか。

Does your sister speak English?

- (13) NH1_# 34 私は日本食は好きではありません。

I don't like Japanese food.

- (14) NH1_# 35 フレッドはテンプラが好きではありません。

Fred doesn't like tempura.

- (15) NH1_# 38 あなたには男のきょうだいがありますか。

Do you have any brothers?

- (16) NH1_# 39 私には、男のきょうだいはありません。

I don't have any brothers.

- (17) NH1_# 47 私の犬は私が好きです。

My dog likes me.

- (18) NH1_# 48 私は彼が好きです。

I like him.

- (19) NH1_# 49 彼は、彼女が好きです。

He likes her.

- (20) NH1_# 51 あなたはいつテニスをしますか。

When do you play tennis?

- (21) NH1_# 52 私は日曜日にテニスをします。

I play tennis on Sunday.

- (22) NH1_# 53 マイクは今、日本語の勉強中です。
Mike is studying Japanese now.
- (23) NH1_# 55 あなたは今、英語を勉強していますか。
Are you studying English now?

Sunshine English 1

- (24) SE1_# 17 私は、英語が好きです。
I like English.
- (25) SE1_# 18 [これは、きれいな写真です。] 私は、その写真が好きです。
[This is a pretty picture.] I like the picture.
- (26) SE1_# 19 あなたは、音楽が好きですか。
Do you like music?
- (27) SE1_# 20 あなたは、花を2本持っています。
You have two flowers.
- (28) SE1_# 21 私は、かばんをひとつ持っています。
I have a bag.
- (29) SE1_# 22 私は、箱を持っていません。
I don't have a box.
- (30) SE1_# 23 私も、ラッシュアワーが好きではありません。
I don't like rush hour, either.
- (31) SE1_# 24 あなたは、かばんの中にえんぴつをもっていますか。
Do you have a pencil in your bag?
- (32) SE1_# 40 毎日、英語を勉強しなさい。
Study English every day.
- (33) SE1_# 41 窓を開けるな。
Don't open the window.
- (34) SE1_# 42 英語を話しましょう。
Let's speak English.
- (35) SE1_# 43 あなたは、りんごをいくつか持っていますか。

- Do you have any apples?
- (36) SE1_# 44 私には、よいともだちが何人かいます。
I have some good friends.
- (37) SE1_# 50 彼女は、ギターを持っています。
She has a guitar.
- (38) SE1_# 51 彼女は、音楽が好きです。
She likes music.
- (39) SE1_# 52 彼は、テニスが好きではありません。
He doesn't like tennis.
- (40) SE1_# 53 彼は、バスケットボールが好きですか。
Does he like basketball?
- (41) SE1_# 54 私は、彼を知っている。
I know him.
- (42) SE1_# 55 啓子は、彼女を知っている。
Keiko knows her.
- (43) SE1_# 56 私は、テニスをする事ができる。
I can play tennis.
- (44) SE1_# 57 彼は、英語を話す事ができる。
He can speak English.
- (45) SE1_# 58 彼は、英語を書くことができません。
He can not (cannot) write English.
- (46) SE1_# 59 あなたは、英語を読むことができますか。
Can you read English?
- (47) SE1_# 64 あなたは、いつバスケットボールをしますか。
When do you play basketball?
- (48) SE1_# 65 私は、午後に野球をします。
I play baseball in the afternoon.
- (49) SE1_# 66 私は、毎日テレビを見ます。
I watch TV (television) every day.

- (50) SE1_# 67 私は、今、テレビを見ています。

I am watching TV (television) now.

- (51) SE1_# 71 だれがあの車が好きですか。

Who likes that car?

New Horizon 2

- (52) NH2_# 05 私は、あの時テレビを見ていました。

I was watching TV at that time.

- (53) NH2_# 07 私は、きのうの晩英語を勉強しました。

I studied English last night.

- (54) NH2_# 08 あなたは、きのう宿題をしましたか。

Did you do your homework?

- (55) NH2_# 19 私は、歴史を勉強するために図書館へ行った。

I went to the library to study history.

- (56) NH2_# 21 私は、明日、手紙を書くつもりである。

I am going to write a letter tomorrow.

- (57) NH2_# 22 あなたは、明日その車を洗うつもりですか。

Are you going to wash the car tomorrow?

- (58) NH2_# 23 あなたは、家を買うつもりですか。

Are you going to buy a house?

- (59) NH2_# 24 私は、彼に会いたい。

I would like to see him.

- (60) NH2_# 25 誰もその絵を見たものはいなかった。

No one saw (has seen) the picture(s).

- (61) NH2_# 28 私は理科を勉強しなければならない。

I have to (must) study science.

- (62) NH2_# 29 マイクは、数学を勉強しなければならない。

Mike has to (must) study science.

- (63) NH2_# 30 あなたは、今、理科を勉強しなければなりませんか。

Do you have to study science now?

- (64) NH2_# 31 なぜあなたはそんなに熱心に英語を勉強しなければいけないのですか。

Why do you have to study English so hard?

- (65) NH2_# 33 もしあなたがそこへ行くのなら、ノート（帳面）を1冊買って来てください。

If you are going (go) there, please buy a notebook for me.

- (66) NH2_# 35 あなたのペンを使ってもよろしいですか。

May I use your pen?

- (67) NH2_# 36 私は、カセットテープを1本買わねばなりません。

I must (have to) buy a cassette tape.

- (68) NH2_# 40 窓を開けてくださいませんか。

Will you (please) open the window?

- (69) NH2_# 42 あなたのお手伝いをいたしましょうか。

Shall I help you?

- (70) NH2_# 44 窓を開けるな。

Don't open the window.

- (71) NH2_# 50 私は、話すのをやめた。

I stopped talking.

- (72) NH2_# 51 私には食べるものがほとんど無い。

I have little to eat.

- (73) NH2_# 53 私は、今、理科を勉強する必要はありません。

I do not have to study science now.

Sunshine English 2

- (74) SE2_# 06 きのう私はテニスをしました。

I played tennis yesterday.

- (75) SE2_# 08 きのう私はテレビをみませんでした。

I did not watch TV yesterday.

- (76) SE2_# 09 きのうあなたは英語の勉強をしましたか。
Did you study English yesterday?
- (77) SE2_# 10 きのうあなたはテニスをしましたか。
Did you play tennis yesterday?
- (78) SE2_# 11 きょうの午後、私は、テニスをするつもりです。
I am going to play tennis this afternoon.
- (79) SE2_# 12 あなたは、きょうの午後テレビを見るつもりですか。
Are you going to watch TV this afternoon?
- (80) SE2_# 13 彼は、きょうの午後はテニスをするつもりですか。
Is he going to play tennis this afternoon?
- (81) SE2_# 15 私が、家に帰ったとき、私の父はテレビを見ていました。
When I came home, my father was watching TV.
- (82) SE2_# 17 彼は、あしたテニスをするでしょう。
He will (is going to) play tennis tomorrow.
- (83) SE2_# 20 私を手伝ってくださいませんか。
Will you help me?
- (84) SE2_# 22 窓を開けましょうか。
Shall I open the window?
- (85) SE2_# 23 あなたのパスポートを見てもよいですか。
May I see your passport?
- (86) SE2_# 24 あなたの自転車を使ってもよいですか。
May I use your bicycle?
- (87) SE2_# 35 ナンシーはバスケットボールよりテニスが好きだ。
Nancy likes tennis better than basketball.
- (88) SE2_# 36 ナンシーはテニスが一番好きだ。
Nancy likes tennis the best.
- (89) SE2_# 39 あなたは、その皿を洗わなければならない。
You have to (must) wash the dishes.
- (90) SE2_# 40 私は、野球をするのが好きだ。

I like to play (playing) baseball.

- (91) SE2_# 41 私は、私の母を見つけたかった。

I wanted to find my mother.

- (92) SE2_# 42 私は、オレンジをいくつか買うためにその店に行った。

I went to the store to buy some oranges.

- (93) SE2_# 44 私はバスケットボールをするのが好きです。

I like to play (playing) basketball.

- (94) SE2_# 45 私はたのしく英語の勉強をしている。(英語を勉強することを楽しんでいる)

I enjoy studying English.

New Horizon 3 and Sunshine English 3

- (95) NH3&SE3_# 01 私は、あなたが水泳が好きなことは知っています。

I know (that) you like swimming.

- (96) NH3&SE3_# 06 あなたは彼を訪問すべきだ。

You should visit him.

- (97) NH3&SE3_# 09 あなたは、富士山に登ったことがありますか。

Have you ever climbed Mt. Fuji?

- (98) NH3&SE3_# 12 私は、英語で手紙の書き方を知っている。

I know how to write a letter in English.

- (99) NH3&SE3_# 14 もう、宿題はおわりましたか。

Have you finished your homework?

- (100) NH3&SE3_# 16 図書館で本を読んでいる学生は私の友人です。

The student reading a book in the library is my friend.

- (101) NH3&SE3_# 22 私には、図書館で働いている友人がいます。

I have a friend [who] works in a (the) library.

- (102) NH3&SE3_# 24 私は、とてもじょうずに鳴く鳥を飼っています。

I have a bird that sings very well.

- (103) NH3&SE3_# 27 私は、啓子に窓を開けてくれるように頼んだ。

I asked Keiko to open the window.

- ⑩④ NH3&SE3_# 30 私は、ギターをひくのが好きだ。

I like playing the guitar.

- ⑩⑤ NH3&SE3_# 34 私には、父がアメリカで働いている友人がある。

I have a friend whose father works in America.

- ⑩⑥ NH3&SE3_# 35 私にとって英語を話すことはやさしい。

It is easy for me to speak English.

- ⑩⑦ NH3&SE3_# 37 その雨のために私達は野球ができなかった。

We could not play baseball because of the rain.

- ⑩⑧ NH3&SE3_# 40 彼には、彼がとても愛しているガールフレンドがいます。

He has a girl friend (whom) he loves very much.

付録 2 : 「主語と動詞の一致」に関する資料

New Horizon 1

- (1) NH1_# 30 彼の妹は日本語を話します。

His sister speaks Japanese.

- (2) NH1_# 31 マイクは毎日日本語を勉強します。

Mike studies Japanese every day.

- (3) NH1_# 32 マイクは日本語を話しますか。はい、そうです。

Does Mike speak Japanese? Yes, he does.

- (4) NH1_# 33 あなたの妹は英語を話しますか。いいえ、話しません。

Does your sister speak English? No, she does not.

- (5) NH1_# 35 フレッドはテンぷラが好きではありません。

Fred doesn't like tempura.

- (6) NH1_# 47 私の犬は私が好きです。

My dog likes me.

- (7) NH1_# 49 彼は、彼女が好きです。

He likes her.

Sunshine English 1

- (8) SE1_# 50 彼女は、ギターを持っています。

She has a guitar.

- (9) SE1_# 51 彼女は、音楽が好きです。

She likes music.

- (10) SE1_# 52 彼は、テニスが好きではありません。

He doesn't like tennis.

- (11) SE1_# 53 「彼は、バスケットボールが好きですか。」「いいえ、そうではありません。」

Does he like basketball? No, he doesn't.

- (12) SE1_# 55 啓子は、彼女を知っている。

Keiko knows her.

- (13) SE1_# 68 彼女は、毎日、歌を歌います。

She sings every day.

New Horizon 2

Sunshine English 2

- (14) SE2_# 35 ナンシーはバスケットボールよりテニスが好きだ。

Nancy likes tennis better than basketball.

- (15) SE2_# 36 ナンシーはテニスが一番好きだ。

Nancy likes tennis the best.

New Horizon 3 and Sunshine English 3

- (16) NH3&SE3_# 28 私は、それが何を意味するかわかりません。

I do not know what it means.

- (17) NH3&SE3_# 29 私は、彼がどこに住んでいるか知らない。
I don't know where he lives.

(2004 年 5 月 6 日 受理)